

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	徳岡 大			
授業科目	心理学 I					
英 訳	Psychology I					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 人間は、自分を取り囲む環境から様々な情報を取り入れ、蓄積し、また多くの経験を積みながら適応を進めていく。そのためには、環境刺激の捉え方や対処の仕方が問題となる。知覚、学習、記憶、性格といった側面から行動と環境との関わりについて理解を深める。						
【授業の目的】 人間の心理や行動の基礎となる原理を学び、心理学が解明しようとする心について理解する。						
【到達目標】 人間の心理や行動の基礎となる原理について理解し、心理学がどのような学問かを知る。						
【準備学習(予習・復習)】 授業内容について配布資料や確認テストを用いて復習しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション、心理学とは 第 2回 心と体のつながり 第 3回 感覚と心理 第 4回 知覚と心理 第 5回 確認テスト、学習の基本原理 I 第 6回 学習の基本原理 II 第 7回 記憶と心理 I 第 8回 記憶と心理 II 第 9回 確認テスト、記憶の変容 第10回 記憶の変容の事例 第11回 パーソナリティと心理 I 第12回 パーソナリティと心理 II 第13回 パーソナリティの測定 第14回 心理「学」としての態度：ニセ科学との対比から 第15回 確認テスト、まとめ 定期試験						
【教科書】 講義ごとに配布資料を用意する。						
【参考書】 適宜指示する。						
【成績評価基準】 期末試験（100％）によって評価する。						
【メッセージ】 15回の講義を通して、「心理学」としての「心」を少しでも身近に感じて頂けると嬉しいです。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目-社会科目	担当教員	徳岡 大			
授業科目	心理学Ⅱ					
英 訳	Psychology Ⅱ					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 人間は、自分を取り囲む環境から様々な情報を取り入れ、蓄積し、また多くの経験を積みながら適応を進めていく。そのためには、環境刺激の捉え方や対処の仕方が問題となる。発達、社会、動機づけといった側面から行動と環境との関わりについて理解を深める。						
【授業の目的】 人間の心理の発達や対人行動の基礎となる原理を学び、自分と他者を理解する導入とする。						
【到達目標】 人間の心理の発達や対人行動の基礎となる原理について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 授業内容について配布資料や確認テストを用いて復習しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 生涯発達 第 3回 乳幼児の定型発達と非定型発達 第 4回 青年期の心理 第 5回 確認テスト、非定型発達を理解する 第 6回 非定型発達を理解する 第 7回 社会と心理：対人的影響 第 8回 社会と心理：集団 第 9回 社会と心理：対人認知 第10回 確認テスト 第11回 社会と心理：これまでのまとめ 第12回 社会と心理：原因帰属 第13回 動機づけ 第14回 犯罪心理学：万引きの例に 第15回 確認テスト 定期試験						
【教科書】 講義ごとに配布資料を用意する。						
【参考書】 適宜指示する。						
【成績評価基準】 期末試験（100％）によって評価する。						
【メッセージ】 15回の講義を通して、「心理学」としての「心」を少しでも身近に感じて頂けると嬉しいです。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	村上 智章			
授業科目	政治学 I					
英 訳	Politics I					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 戦後日本政治史について、宰相（総理大臣）に焦点を当て、その個人史を政治・経済史との関連において検討する。						
【授業の目的】 戦後日本政治が直面した様々な課題に政治家がどのように応答していったのかを学び、現代日本政治について政治学的に考える力を涵養する。						
【到達目標】 ・戦後日本政治史について学習し、戦後日本政治の課題を理解する。 ・戦後日本政治の展開について、具体的に理解する。 ・政治を見る目を養う。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと。 ・テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・授業の要点をまとめること、ノート・配布プリントを整理し、内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 はじめに 戦後日本政治を考える。 第 2回 戦後日本政治の成立 吉田茂① 第 3回 戦後日本政治の成立 吉田茂② 第 4回 55年体制の成立 鳩山一郎 第 5回 60年安保から高度経済成長へ① 岸信介 第 6回 60年安保から高度経済成長へ② 池田勇人 第 7回 60年安保から高度経済成長へ③ 佐藤栄作 第 8回 高度経済成長の終わり ① 佐藤栄作 第 9回 田中角栄とその時代 ② 田中角栄 第10回 田中角栄とその時代 ② 田中角栄・三木武夫 第11回 経済大国日本へ ① 福田赳夫 第12回 経済大国日本へ ② 大平正芳 第13回 バブルの発生と崩壊 ① 鈴木善幸・中曽根康弘 第14回 バブルの発生と崩壊 ② 中曽根康弘 第15回 まとめ						
【教科書】 石川真澄・山口二郎『戦後日本政治史 第3版』岩波新書ISBN978-4-00-431281-9 C0231						
【参考書】						
【成績評価基準】 毎回の講義で提出を求めるコメントペーパーの内容 (50%) ・レポート (50%)						
【メッセージ】 コメントペーパーを通じた、あるいは直接の質問を歓迎します。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	井上 幸希			
授業科目	政治学Ⅱ					
英 訳	Politics II					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 現代政治を支える仕組みや制度を中心に取り上げ、今後、社会人として政治について自分なりに考える力を身につけることができるように、基礎から説明します。						
【授業の目的】 政治学の様々な理論枠組みとその前提となる考え方を理解し、日本だけでなく各国の政治制度を理解することを目的とします。						
【到達目標】 政治学の基礎的知識を修得し、現代の政治と社会に対する考え方や感覚を身につけること。						
【準備学習(予習・復習)】 事前に教科書を読んでおいて下さい(毎回、講義後に読んでおく所を指定します)。また、講義後は毎回教科書および講義ノートを見直し、分からないところは質問に来て下さい。						
【授業計画】 第 1回 政治とは何か 第 2回 近代国家の原理と制度 第 3回 権力分立制について 第 4回 現代の政治体制について 第 5回 日本の統治システムについて①(国会と立法) 第 6回 日本の統治システムについて②(内閣と行政) 第 7回 日本の選挙制度①(民主的な選挙の原則について) 第 8回 日本の選挙制度②(現在の日本の選挙制度について) 第 9回 日本の選挙制度③(議員定数不均衡をめぐる訴訟について) 第10回 政党とは何か 第11回 世論とマス・メディア 第12回 地方自治 第13回 現代の国際政治①(冷戦時代における政治状況について) 第14回 現代の国際政治②(冷戦後の政治状況について) 第15回 まとめ 定期試験						
【教科書】 ・池尾靖志・佐藤史郎・上野友也・松村博行『はじめての政治学』(法律文化社、2014年)						
【参考書】 講義中に随時、紹介します。						
【成績評価基準】 期末試験70%、学修への姿勢30%で評価します。なお、学修への意欲が良好な場合は積極的に評価しますが、学修への姿勢が不良な場合は減点対象となります。						
【メッセージ】 この講義をきっかけにして、少しでも政治学に対する関心を持ってもらいたいです。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	栗原 理			
授業科目	経済学 I					
英 訳	Economics I					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 標準的なミクロ経済学の入門レベルの内容を講義する。一般に「価格理論」と呼ばれる、消費者理論・企業理論・市場理論を学ぶ。						
【授業の目的】 本講義では、実際の経済問題から話題を選び、現実の経済問題を考えることによって、ミクロ経済学の基礎を修得する。実際の経済問題を考える際に、理論をどう応用するかという点に重点を置いて学ぶ。						
【到達目標】 テキストや事例を教材として価格理論 (price theory) を学ぶことをとおして、ミクロ経済学の基礎・基本を理解することを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 <ul style="list-style-type: none"> ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめ、与えられた課題をまとめること ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリント等を整理し内容を理解すること 						
【授業計画】 第 1回 講義概要について 第 2回 経済学, ミクロ経済学とは 第 3回 完全市場と不完全市場 第 4回 需要曲線と供給曲線 第 5回 需要と供給の調整 第 6回 限界効用逓減の法則 第 7回 無差別曲線と予算制約線 第 8回 上級財と下級財 第 9回 消費と貯蓄 第10回 収穫逓減の法則 第11回 等生産量曲線と等費用曲線 第12回 独占の弊害 第13回 経済の外部性, 外部不経済と公害 第14回 貿易の利益 第15回 講義のまとめ 定期試験						
【教科書】 第一回目に指示します。						
【参考書】 N. グレゴリー マンキュー 『マンキュー入門経済学 (第2版)』 足立英之訳, 2014 年, 東洋経済新報社。						
【成績評価基準】 期末試験(60%), レポート(20%), 授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	栗原 理			
授業科目	経済学Ⅱ					
英 訳	Economics Ⅱ					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 標準的なマクロ経済学の入門レベルの内容を講義する。わが国経済を俯瞰しながら、有効需要の原理やIS-LM分析を中心に、それらの周辺の話題も含めて学ぶ。						
【授業の目的】 本講義では、実際の経済問題から話題を選び、現実の経済問題を考えることによって、マクロ経済学の基礎を修得する。実際の経済問題を考える際に、理論をどう応用するかという点に重点を置いて学ぶ。						
【到達目標】 テキストや時事問題を教材として一国の経済を学ぶことをとおして、マクロ経済学の基礎・基本を理解することを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめ、与えられた課題をまとめること ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリント等を整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 講義概要について 第 2回 マクロ経済を学ぶ 第 3回 GDPの三面等価 第 4回 有効需要の原理 第 5回 景気変動 第 6回 マネーストック 第 7回 金融政策の役割 第 8回 IS-LM分析 第 9回 国際収支のしくみ 第10回 外国為替レートの決定 第11回 バブル経済とはなんだったのか 第12回 わが国の貯蓄率について 第13回 国債の発行について 第14回 インフレーションと失業との関係 第15回 講義のまとめ 定期試験						
【教科書】 第一回目に指示します。						
【参考書】 N. グレゴリー マンキュー 『マンキュー入門経済学 (第2版)』 足立英之訳, 2014年, 東洋経済新報社。						
【成績評価基準】 期末試験(60%), レポート(20%), 授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	井上 幸希			
授業科目	日本国憲法					
英 訳	The Japanese Constitution					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 国民主権、平和主義と共に、立法・行政・司法等の仕組み(統治機構)と基本的人権の保障について、日本国憲法の全体像が理解できるよう、下記の計画に沿って授業を進める。なお、節目毎にまとめを行う。						
【授業の目的】 「憲法とは何か」「日本国憲法はどのような基本原理の下にあるのか」を学び、それが具体的に実社会や我々の生活にどう関連しているかを、裁判例や学説等を基に考えることによって憲法への理解を深める。						
【到達目標】 日本国憲法が保障する基本的人権についての理解を深め、社会の一員としての人権感覚を身につけること。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回事前に教科書および配付資料を読んでおくこと。復習としては、配付資料および講義ノートを見直し、分からないところは質問にきて下さい。						
【授業計画】 第 1回 法とは何か、法の解釈、憲法とは何か、立憲主義憲法とは、憲法と法律・政省令の関係 第 2回 明治憲法の特徴、日本国憲法の成立、日本国憲法の基本原理、権力分立主義、憲法改正 第 3回 国民主権と象徴天皇制(1)国民主権について、直接民主制と間接民主制 第 4回 国民主権と象徴天皇制(2)象徴天皇の意味、皇位の継承、君主・元首、天皇の国事行為 第 5回 平和主義の理念(1)戦争と平和の世紀、9条の解釈、戦争の放棄、戦力の不保持 第 6回 平和主義の理念(2)自衛権について、9条と自衛隊、自衛隊の活動範囲及びまとめ 第 7回 基本的人権について(基本的人権とは何か、その意味と内容、基本的人権の限界) 第 8回 基本的人権の射程(基本的人権は誰のものか、基本的人権の私人間適用) 第 9回 幸福追求権と法の下での平等(幸福追求権は権利か、自己決定権、平等の意味) 第10回 信教の自由、表現の自由、教育に関する権利、職業の自由と財産権 第11回 刑事手続きの自由(適正手続きの保障等)、生存権(生活扶助、環境権等)及びまとめ 第12回 国会(国会の地位、衆議院と参議院、両議院の活動、国会の権能、議院の権能) 第13回 内閣(内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、総理大臣と国务大臣、内閣の権能と責任) 第14回 裁判所(最高裁判所と下級裁判所、司法権の限界、司法権の独立、違憲審査制) 第15回 地方自治(地方自治の保障、地方公共団体の組織と権能、条例制定権)及びまとめ 定期試験						
【教科書】 ・西村裕三編『判例で学ぶ日本国憲法』(有信堂高文社、2012年) ・補足説明用に適宜プリントを配付する。						
【参考書】 ・憲法への招待(渋谷秀樹著、岩波新書) ・憲法第5版(芦部信喜著、岩波書店) ・はじめて学ぶやさしい憲法(長尾一紘 著、実務教育出版)						
【成績評価基準】 期末試験80%、学修への姿勢20%で評価します。なお、学修への意欲が良好な場合は積極的に評価しますが、学修への姿勢が不良な場合は、減点対象となります。						
【メッセージ】 憲法と聞くと「難しい!」と思われがちですが、そんなことはないですよ。気軽な気持ちで受講して下さい。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－社会科目	担当教員	井上 幸希			
授業科目	法律学					
英 訳	Law					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 まず法とは何か、法がどのように発展したのかについて理解する。その上で、刑法と刑事訴訟法の基礎や、民法（特に契約法・親族法に重点をおく）の基礎、そして、憲法では統治機構の基礎や憲法によって保障されている基本的人権について学修する。						
【授業の目的】 この授業の目的は、私たちの生活とかわりのある法律の基礎知識を修得することにある。憲法、民法、刑法などの法律が、私たちの日常生活において、どのような役割を果たしているのかを知り、自ら考える力を身につけてもらいたい。						
【到達目標】 私たちの生活とかわりのある法律の基礎知識を修得し、自ら考える力を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 教科書および配付資料を読んで次回の講義に備えること。また、復習として講義ノートおよび配付資料を見直すこと。日頃から、新聞やテレビ、インターネットにより法律に関わる情報を得るように心がけて下さい。						
【授業計画】 第 1回 法とは何か 第 2回 犯罪と法①（刑罰とは何かについて） 第 3回 犯罪と法②（刑事訴訟法の基礎について） 第 4回 財産関係と法①（不法行為と損害賠償について） 第 5回 財産関係と法②（契約法を中心に） 第 6回 財産関係と法③（クーリング・オフ制度など消費者保護を目的とした制度について） 第 7回 家族関係と法①（親権、扶養義務等について） 第 8回 家族関係と法②（嫡出推定、非嫡出子をめぐる問題について） 第 9回 家族関係と法③（法律婚と事実婚、再婚禁止期間など婚姻に関する憲法問題について） 第10回 家族関係と法④（離婚について） 第11回 近代国家と憲法 第12回 権力分立制と人権保障 第13回 基本的人権①（基本的人権の基礎） 第14回 基本的人権②（法の下での平等、表現の自由、自己決定権について） 第15回 基本的人権③（生存権、参政権等について） 定期試験						
【教科書】 ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂高文社、2013年）						
【参考書】 ・松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫著『はじめての法律学 HとJの物語』（有斐閣アルマ、2014年）						
【成績評価基準】 期末試験80%、学修への姿勢20%で評価します。なお、学修への意欲が良好な場合は積極的に評価しますが、学修への姿勢が不良な場合は減点対象となります。						
【メッセージ】 法律と聞くと「難しい!」と思いがちですが、そんなことはありません。私たちの生活と法律とは密接に関係しています。気軽な気持ちで講義を受けて下さい。						